

場に線を引く —地域の魅力を引き出す補助線としての建築—

補助線	五感	場	1240033	大西竜司*1
竹	徒歩	持続可能	指導教員	高野洋平

1. 背景

人類学者ティム・インゴルドは近代化により旅行形態が徒歩移動から輸送へ変化したと述べている。

このことで、場の概念が目的地と目的地を結ぶネットワークとなり、本来その間にあった五感で周囲を知覚し行動する人間的な活動が欠落した。

長い年月をかけて培われた「場」には自然や歴史、文化など様々な魅力が絡み合っている。しかし、現代の輸送的な旅行形態は旅行者のニーズに答えるあまり、テーマパークのように受動的な活動で完結している。これにより、場の持つ本来の魅力が蔑ろにされ、観光地が消費物として扱われていると感じる。

持続可能な観光地の実現には、今一度「場」本来の魅力に着目し、徒歩移動で旅行していた時のように場を体全体で体験する必要があると考える。

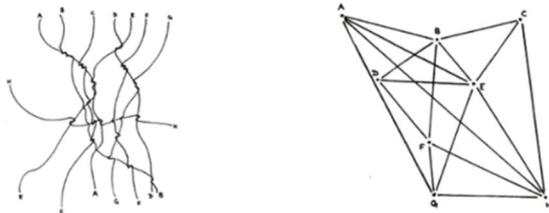


図1 「徒歩移動」の線（左）「輸送」の線（右）
1)ライズ 線の文化史より引用

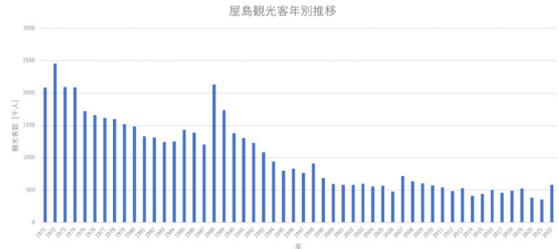
2. 目的

本設計では場のポテンシャルに焦点を当て、持続可能な観光地を形成することを目的とする。

3. 対象敷地

敷地は、香川県高松市の北東部に位置する屋島である。屋島は、南北約 5km、東西約 3km の陸繋島であり、標高 292m の屋根のような形をした山とそのふもとの住宅街によって構成されている。史跡天然記念物、瀬戸内海国立公園等に指定されている景勝地であり、最盛期（1972年）には年間 246 万人の観光客を迎えていた。

表 1 屋島の観光客数の推移



2) 令和 4 年香川県観光客動態調査報告をもとに作成

修学旅行先には選ばれるほど観光業で栄えていた当時の屋島は、場のポテンシャルを無視し、宿泊施設や商業施設を建て続けていた。その結果、バブル崩壊とともに観光ニーズが変化した途端、そのほとんどが廃墟と化した。

現在の屋島は、水族館や展望台のある特定の箇所のみがドライブウェイを通して輸送的な観光として栄えている状態であり、屋島本来の魅力である豊かな自然や、様々な展望が生かし切れていないと考える。

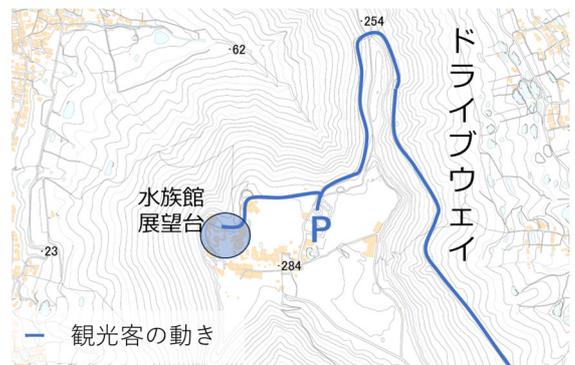


図 2 屋島山頂における観光客の動き
3)国土地理院基盤地図情報をもとに作成

4. 設計手法

4.1 補助線としての建築

一般に補助線とは幾何学問題を解く際に書き加える線のことを示す。補助線を引いた前後で図形の事実が変わるわけではないが、その図形が事実として持っている特性を可視化することができる。つまり、図形のポテンシャルを引き出した状態であると言える。

補助線におけるこのような、対象のポテンシャルを引き出す役割を建築に与える。

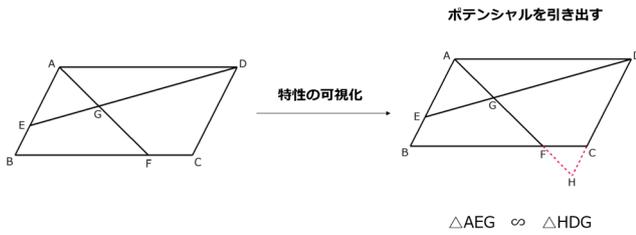


図 3 補助線の効果

4.2 場における補助線

建築におけるポテンシャルを引き出す対象は「場」である。「場」は幾何学図形以上に多くの事実であふれている。事実が多すぎるがゆえに認識が追い付かず、図4のようにそこにある魅力に気づけていないことも多いと感じる。

そこで、補助線としての建築を挿入する。すると、空間が意識の向きを補助し、屋根や壁がフィルターとなることで五感による知覚を補助する。これにより図5のようにこれまで気づけなかった頭上の葉っぱの形や鳥のさえずり、切り株の感触、草木の匂いなど場が持っていた様々な魅力に気づくことができる。

このように、場に合わせた補助線を引くことで、補助線を引く前には気づけなかった場の魅力を体感することができる。

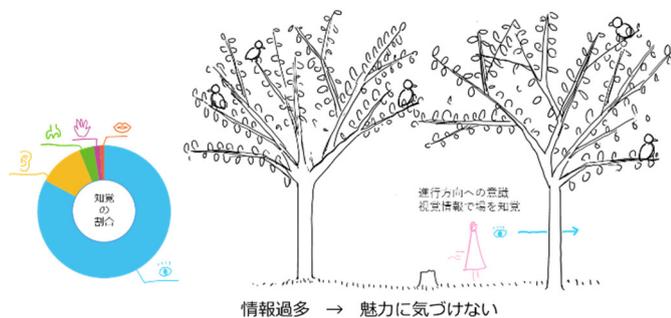


図 4 場のポテンシャルを生かせていない例

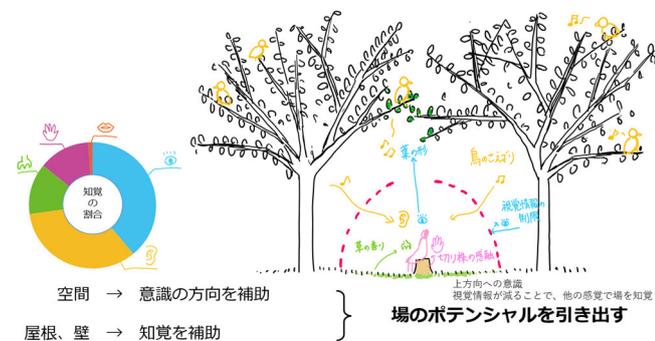


図 5 補助線(赤点線)による効果のイメージ

5. 全体計画

このような補助線を屋島の様々な場所に挿入することで、学校の授業で獲得する知識の「伝達」とは異なる、各々が歩いて感じる体験的な知覚による知識の「身体化」を行う場とする。これらを通して、読書や授業、都市の活動では得られない体験を得ることで、自己の形成を行う「山の学校」のような場所として屋島を計画する。

6. 建材

以下の理由から建材には竹を用いる。

I 竹害改善

現在香川県全体で、放置された竹林による竹の無秩序な増殖が問題となっている。

屋島も例外ではなく、竹林の放置は土砂災害および、植生や生態系を崩す原因につながる。



図 6 屋島東町の竹林

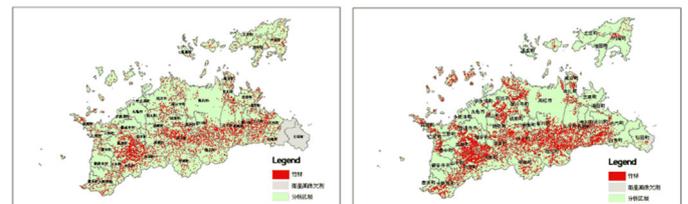


図 7 香川県の竹林分布 1986年(左)と2000年(右)

⁴⁾香川県 HP「竹林の現状」より引用

II ワークショップによる地域活性化

施工にワークショップを組み込むことで屋島のポテンシャルの一つである地域の人々を巻き込むことができる。これにより、竹を扱う行為が地域の活力を引き出す。

III 補助線に適した素材

施工の際の専門性が高い鉄骨や、人工物であるコンクリートに対し、竹は素材として弱さや、加工性の良さ、自然への溶け込み方など多くの点において、補助線に適した素材であると言える。

7. 設計手順

7.1 場の言語化

実際に屋島の様々な場所を歩き、屋島のポテンシャルの言語化を行った。

まず、屋島における場の構成要素を「森」「空」「海」「街」「大地」「生き物」の6つ抽出した。次に、これらの要素をさらに細分化する。そして、細分化した要素を動詞に変換することで身体的な体験方法に置き換える。最

卒業論文概要

後にこれらの体験方法がどのように五感の知覚を補助するかを位置づけることで、屋島での魅力的な知覚体験を採った。

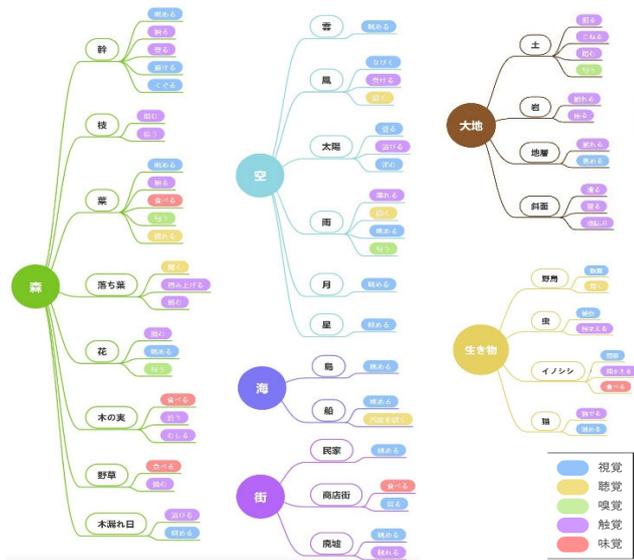


図 8 知覚対象の分類と言語化

7.2 設計敷地の選定

場の言語化をもとにポテンシャルを持った場を5か所選定し、それぞれのテーマに対して補助線を設計する。



図 9 補助線の分布

⁵⁾地理院地図をもとに作成

8. 設計内容

a) 竹の補助線 竹×工房

竹の処理、加工、販売を行う工房を建てる。

全ての活動の拠点となり、ワークショップなどを通して触覚を始めとした五感を刺激する。

工房や物販エリアなど機能として最低限必要な居室はコンクリートのボックスとし、その他の部分を竹のフレームで覆い膜屋根をかけた。平面計画では、竹の処理から加工、販売までの動きが一筆書きとなるよう機能を配置している。



図 10 竹置き場から見た工房

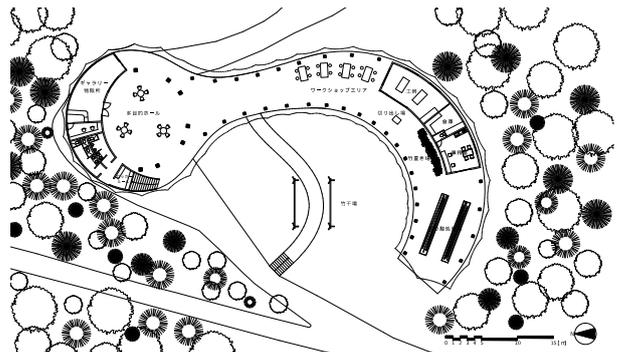


図 11 工房平面図

b) 空の補助線 空×竹垣

処理した竹を干すことでできる巨大な竹垣によって空間が作り出される。竹を切る秋の時期のみ体感でき、干された竹は周囲の余計な視覚情報を遮断し秋晴れの空へ視線を導く。



図 12 空の補助線

c) 海の補助線

海×竹風鈴

瀬戸内海へ放射状に広がる屋根に促されるように大パノラマを望む展望台。崖下から吹く風が風鈴を揺らし海風を聴覚で感じる。



図 13 海の補助線

d) 森の補助線

森×シェード

森に巨大なランプシェードをかけることで、視覚情報を減らし聴覚、嗅覚で森を感じる。シェードにはウバメガシの美しい木陰が映し出され、その奥から野鳥の鳴き声が聞こえる。



図 14 森の補助線

夜になると反対に内側から光を照らすことで大提灯となり、夜景スポットの西尾根展望台へ誘導する。香川の伝統工芸品である讃岐提灯の展示やワークショップと合わせて、夜の屋島も体験してもらう。

e) 時の補助線 廃墟×タープ

廃墟の一角に竹でできたタープをかける。廃墟の一部はギャラリーとして利用し、タープのかかった屋外空間は展望台兼休憩所として利用



図 15 時の補助線

される。眼下には源平合戦跡地が広がり、後ろには 20 年前まで活躍していた巨大ホテル、頭上には日光により色あせる竹、地面には竹の隙間から差し込む日差しの移ろいなど周囲のいくつもの要素が大小さまざまな時の流れを思わせる。

遍路道の道中にある事から、このような空間の中でお遍路さんは次の目的地である八栗山を望みながら足を休める。

f) 大地の補助線 大地×連続するフレーム

屋島の尾根道にフレームをかける。フレームは尾根の岩場を切り抜くと同時に、道を掛けるための足がかりとなる。これにより尾根の突出した岩に触れ、座り、眺めることで大地を感じる。



図 16 大地の補助線

g) 食の補助線 食×多様な軸線

炊事場を設け、多様な軸線を持った屋根をかける。

周囲の風景を多様な軸線で取り込むことで、イノシシ、山菜、木の実などの山の幸がこの場でとれた食材であることを、味覚を通して実感する。



図 17 食の補助線

9. まとめ

屋島の様々な場所に補助線が引かれることで、自然と歩行的活動が誘発される。これにより補助線を引いた場所を筆頭に、歩くことで屋島が本来持っていた様々な魅力を体感することができる。

また、竹でできた補助線は十数年後には朽ち、新たな補助線が引かれる。人によって見えている世界が違うように、設計者によって引く補助線も変わる。屋島には持続的に補助線が引かれ、その都度私たちは屋島の新たな魅力を発見できるだろう。

10. 参考文献

- 1) ティム・インゴルド (著)・工藤晋 (訳), ラインズ線の文化史, 左右社, 2014, p133
- 2) 令和 4 年香川県観光客動態調査報告
<https://www.pref.kagawa.lg.jp/kouryu/tokei/kankoukyakudoutaicyosa202307.html>
- 3) 国土地理院基盤地図情報
<https://fgd.gsi.go.jp/download/menu.php>
- 4) 香川県 HP 「竹林の現状」
https://www.pref.kagawa.lg.jp/rinsei/seibi/tikurin/1_genzyo.html
- 5) 国土地理院地理院地図 <https://maps.gsi.go.jp/>